


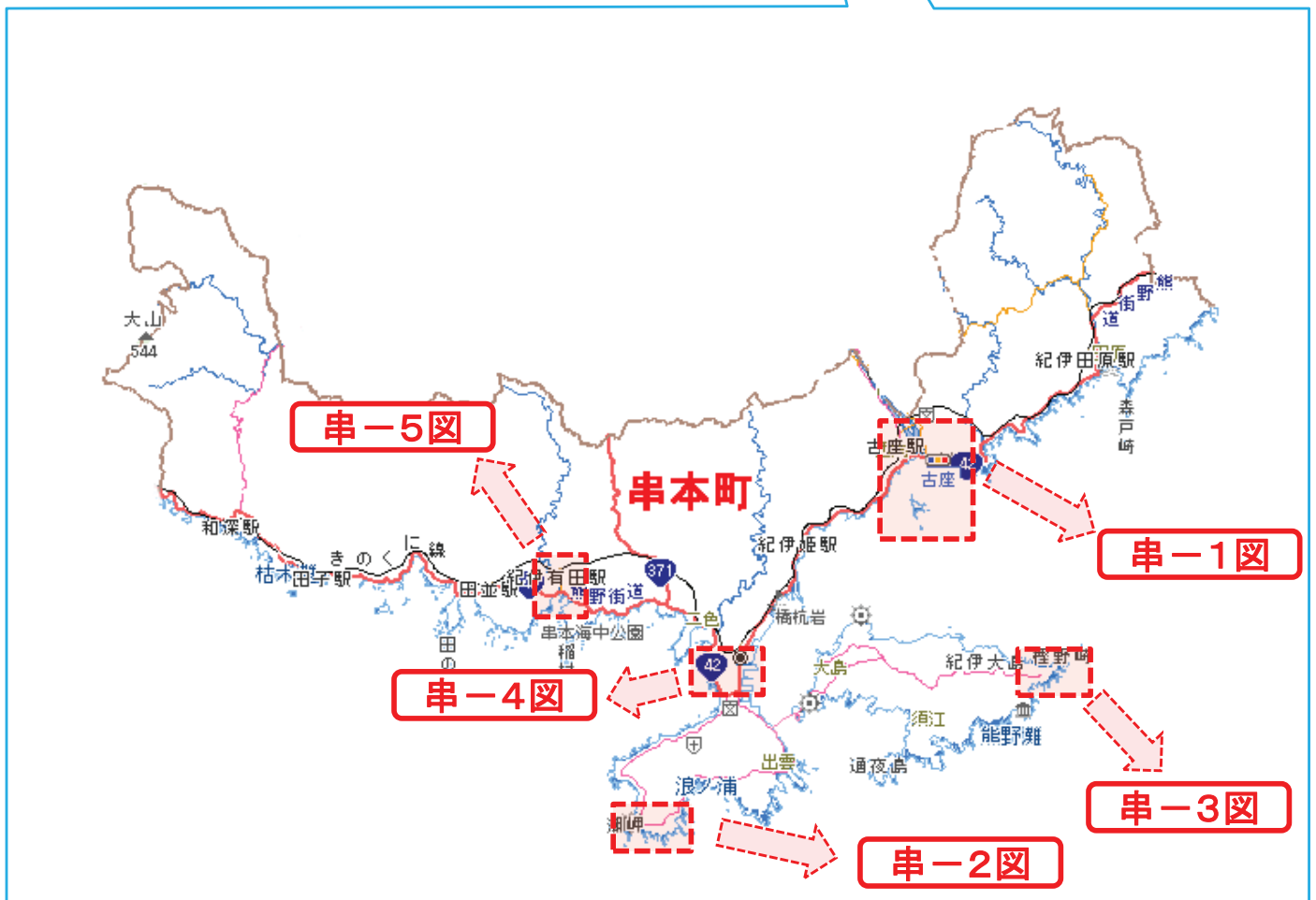


① 申請者	◎和歌山県(新宮市・那智勝浦町・太地町・串本町)	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル  「鯨とともに生きる」			
④ ストーリーの概要(200字程度)			
<p>鯨は、日本人にとって信仰の対象となる特別な存在であった。人々は、大海原を悠々と泳ぐ巨体を畏れたものの、時折浜辺に打ち上げられた鯨を食料や道具の素材などに利用していたが、やがて生活を安定させるため、捕鯨に乗り出した。</p>			
<p>熊野灘沿岸地域では、江戸時代に入り、熊野水軍の流れを汲む人々が捕鯨の技術や流通方法を確立し、これ以降、この地域は鯨に感謝しつつ捕鯨とともに生きてきた。当時の捕鯨の面影を残す旧跡が町中や周辺に点在し、鯨にまつわる祭りや伝統芸能、食文化が今も受け継がれている。</p>			
			
<p>紀州太地浦鯨大漁之図・鯨全体之図</p>			
			
<p>古式捕鯨高塚連絡所跡</p>		<p>河内祭の御舟行事</p>	

# 市町村の位置図



# 構成文化財の位置図(串本町・その1)

## 串-1図



## 構成文化財の位置図(串本町・その2)

串-2図



## 構成文化財の位置図(串本町・その3)

### 串-3図



# 構成文化財の位置図(串本町・その4)

串-4図



# 構成文化財の位置図(串本町・その5)

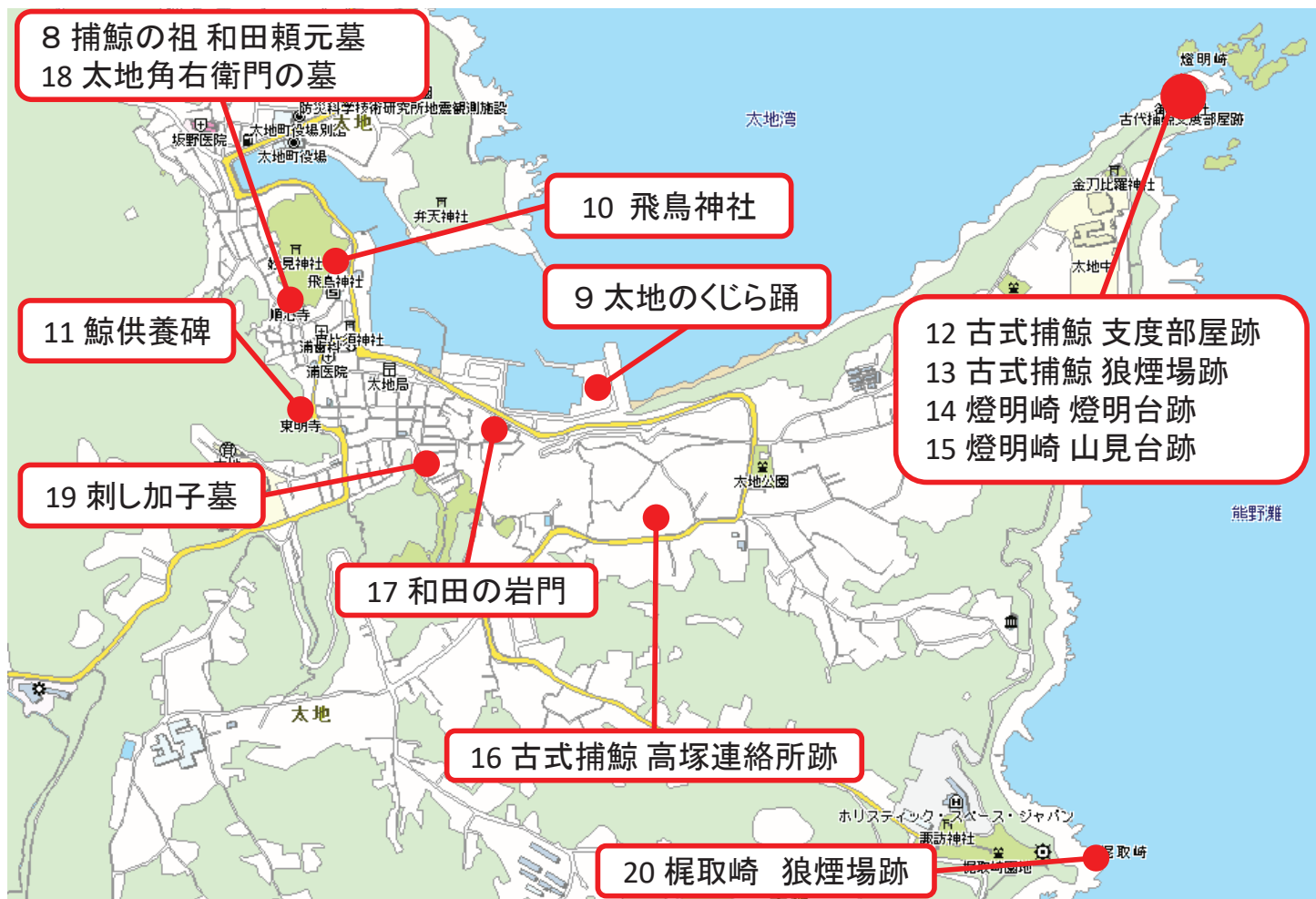
串-5図



# 市町村の位置図



# 構成文化財の位置図(太地町)





# 構成文化財の位置図(新宮市)







# 構成文化財の位置図(那智勝浦町・その2)

## 勝-3図



# 構成文化財の位置図(那智勝浦町・その3)

## 勝-4図



## ストーリー

## 「鯨とともに生きる」

鯨は、古来より、日本人にとって富をもたらす神“えびす”であった。浜辺に打ち寄せられた鯨の肉を食し、皮や骨、ひげで生活用品を作るなど、全てを余すことなく利用してきた人々は、この“海からの贈り物”に感謝し崇めながらも、やがて自ら捕獲する道を歩み始める。

熊野灘沿岸地域では、江戸時代初期に組織的な古式捕鯨（網で鯨の動きを止め、銚を打つ漁法）が始まり、地域を支える一大産業に発展した。現在も捕鯨は続けられ、食・祭り・伝統芸能などが伝承され「鯨とともに生きる」捕鯨文化が息づいている。

## 《古式捕鯨の歴史》

熊野灘沿岸は、背後に急峻な熊野の山々を擁し、橋杭岩（はしくいいわ）などの岩礁が目立つリアス式海岸が続いている。その海岸近くを、黒潮が最大4ノットの速さで南方から北へ向けて流れ、多くの海の幸をもたらしている。



紀州熊野浦捕鯨図屏風

この地域は、鯨が陸の近くを頻繁に回遊すること、またその鯨をいち早く発見することのできる高台、捕った鯨を引き揚げることのできる浜という、古式捕鯨にとって最も重要な地理的要件を備えていた。

そして、人々は古くより生きる糧を海に求めたため、造船や操船に秀で、泳ぎに長けており、海に関する知識が豊富であった。これは、この地域の人々が、古くに熊野水軍として名を馳せ、源平の戦いでは海上戦の勝敗を左右する活躍をしたことなどからもわかる。

江戸時代、この能力を活かし、新たな産業として着手したのが捕鯨である。最大の生物である鯨を捕獲するには、船団を組み、深さ約45mから60mにも及ぶ網で鯨を取り囲み、銚で仕留めるとい、他に類を見ない大がかりな漁法が必要であった。命の危険を伴うこの漁は、勇敢さと統一ある行動が求められた。この意味で捕鯨は、水軍で培われた知識と技術が、そのまま有効に活用できる漁であり、その壮大さは「紀州熊野浦捕鯨図屏風」などに生き生きと描かれている。



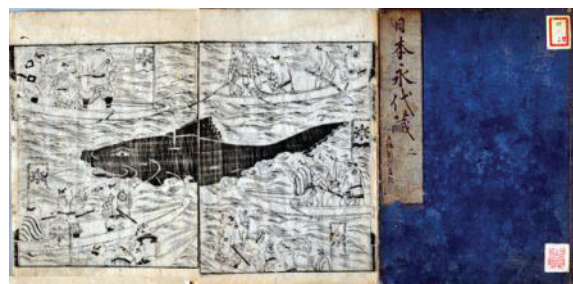
紀州太地浦鯨大漁之図

漁においては、500名を超える人々が役割を分担し、地域を挙げて捕鯨に従事していた。その役割は、鯨を見張り到来を知らせるほか不足資材や漁の状況等の情報の伝達をする者（山見（やまみ））、鯨に網を掛ける者（網舟（あみぶね））、銚を打つ者（羽差（はざし））、仕留めた鯨を運搬する者（持双舟（もつそうぶね））、操業中各舟で不足した資材・食料を運搬する者（納屋舟（なやぶね））、また資材の管理や修繕を行う者（大納屋（おおなや））など多岐に渡っていた。

解体・加工は、「鯨始末（しまつ）係」が担った。鯨始末係は、鯨を引き上げるために轆轤（りくろ）を回す“頭仲間（かばちなかま）”、解体をする“魚切（うおきり）”、骨や皮などを釜煎りし鯨油を採取する“採油係”などに細分化され、総勢80余名で構成された。彼らは、肉の大半を塩漬けにして樽詰で出荷し、ヒゲや筋は

道具の素材とし、採油後の骨や血液の粉、胃の中の食物等は肥料とするなど、持てる知識と技術を發揮し、巨体の全てを活用した。

鯨は、“一頭で七郷が潤う”と言われ、当時セミクジラ1頭で約120両にもなり、年間95頭捕れた天和元年(1681年)には、6,000両を超す莫大な利益をもたらした。このことは、遠く離れた大阪にも伝わり、井原西鶴の著書「日本永代蔵」には、鯨を取って得られる金銀が、使っても減らないほど蓄えられ、檜造りの長屋に200人を超す漁師が住み、船が80隻



日本永代蔵 卷二

もあり、鯨の骨で造られた三丈ほどの「鯨鳥居」があるなど、この地域の繁栄ぶりが記述されている。

捕鯨が発展を遂げた背景には、捕鯨という一次産業にとどまらず、解体や加工、鯨舟を造る船大工、鉋や剣を作る鍛冶屋、浮き樽を作る桶屋、販売・経営を司る支配所など、二次・三次にも及ぶ広い業種が関わり、地域全体が利益を享受できるシステムを構築していたことが挙げられる。

#### 《捕鯨が育んだ文化》

この地域には、多くの鯨にまつわる祭りや伝統芸能が今も受け継がれている。飛鳥神社の「お弓祭り」や塩竈(しおがま)神社の「せみ祭り」では、的に取り付けられた「せみ」(セミクジラを模した木や藁で作られたもの)という縁起物を用い、豊漁や航海の安全を祈願している。「河内祭(こうちまつり)」のハイライトは、豪華に飾り立てた鯨舟(とぎふね)の渡御であり、かつて捕鯨がこの地域の生活を担う誇るべき産業であったことを物語っている。



塩竈神社のせみ祭り



三輪崎の鯨踊

また、鯨踊は、かつて大漁を祝う鯨唄の調べとともに、勢子舟(せこぶね)に渡した板の上に座したまま、あるいは浜で舞っていたものだが、この踊りにおける一糸乱れぬ動きは、鯨との死闘を見るようである。新宮市や太地町では、多くの小学生が、学習の一環としてこの踊りを習い、次の担い手となって継承しており、今では神事の際や祭りで披露し、郷土芸能として浸透している。



河内祭の御舟

平素の生活においても、今も続く捕鯨により得られた肉は、郷土の味として定着している。

熊野灘沿岸の各地には、古式捕鯨時代の山見台跡や狼煙(のろし)跡、総指揮を行う支度部屋(したくべや)跡などが残り、当時の勇壮な漁の様子を想像できる。

また、太地漁港周辺に残る集落全体を取り囲む石垣の一部や、集落の入り口にあたる場所にあった“和田の岩門(せきもん)”などは、かつて地域が一つの共同体として捕鯨に取り組んでいた面影を今に残しており、江戸時代以降、この地域の産業と文化の根幹であった古式捕鯨の名残を今も伝えている。



燈明崎山見台跡

## ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	河内祭の御舟行事 <small>こうちまつり みらね</small>	国重要無形 民俗	祭りのハイライト舟渡御 <small>(ふなとぎよ)</small> に登場する装飾された鯨船が、かつて捕鯨が地域の生活を担う誇るべき産業であったことを今に伝えている。	串本町
2	九龍島 <small>くろしほ</small>	国名勝	熊野灘沿岸の人々が、捕鯨につながる熊野水軍として活躍した時代に拠点のあった島であり、捕鯨が育んだ文化の一つ「河内祭り御舟行事」の舞台となる古座川 <small>(こざがわ)</small> 河口に位置し、祭りにとって聖なる場所とされる。	串本町
3	潮岬の鯨山見 <small>しほのみさき くしらやまみ</small>	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台があった跡であり、かつて、古座鯨方 <small>(こざくしらがた)</small> の拠点であった。岬の突端に位置し、熊野灘を沖合まで広角に見渡せる。	串本町
4	檜野崎の鯨山見 <small>かしのざき</small>	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台があった場所であり、かつての古座鯨方山見跡の名残を留めている。岬の突端に位置し、熊野灘を沖合まで広角に見渡せる。	串本町
5	串本町史編纂資料	未指定	(鯨文書) 古座鯨方に関する目録や日記などの文書類である。 (鯨絵巻) 鯨、勢子船、道具など古式捕鯨にかかわるものを描いた絵巻物である。絵は彩色を施している。 (喜多野又兵衛板書) 紀州藩から派遣された役員である喜多野又兵衛が不漁時に尽力したこと功績が記され、古座組鯨方石宝に納められていた3枚の板書である。  これらの資料は、古式捕鯨の様子や組織の状況などを今に伝えている。	串本町
6	有田八幡神社寄進札	未指定	有田八幡神社の遷宮時における寄進札である。鯨組と羽指の名前が見え、17世紀中頃の鯨方の様子を今に伝えている。	串本町

7	古座組鯨方石宝	未指定	古座組鯨方の信仰の対象であった石製の祠である。喜多野又兵衛板書が納められていた。往時における鯨方の信仰を物語っている。	串本町
8	捕鯨の祖 和田頼元墓	県史跡	熊野灘地域において組織的捕鯨(古式捕鯨)を始めた和田頼元の存在が墓石から確認できる。	太地町
9	太地のくじら踊	県無形民俗	捕鯨が育んだ文化として、かつての古式捕鯨における行事を今に伝える。もとは「デーカイト」と呼び継承されてきた。踊手(おどりて)、唄手(うたいて)、太鼓打ちに分かれ、踊りは、綾棒(あやぼう)を銚(もり)に見立てて打ち振る「綾踊り」と、素手のまま太鼓のリズムにのせて鯨をつかみ取る「魚(さかな)踊り」の豪快な2曲からなり、いずれも座踊(ざおどり)である。2隻の船の間に板を渡して踊る「船がかり」と、座敷に2段の舞台を組み踊る「座敷がかり」がある。	太地町
10	飛鳥神社	町指定(建造物)	当神社で行われる「お弓祭り」(例祭)では、的に取り付けられた鯨に似せた「せみ」を奪い合うなど、捕鯨にまつわる伝統行事が今も受け継がれている。	太地町
11	鯨 供養碑	町史跡	古式捕鯨時代に建立された現存する唯一の供養碑として、かつて人々が鯨に寄せた思いをしのぶことができる。	太地町
12	古式捕鯨 支度部屋跡	町史跡	古式捕鯨が始まった頃に設けられた施設の跡で、明治以降に撤収されたが、古式捕鯨の名残を伝える。	太地町
13	古式捕鯨 狼煙場跡	町史跡	当時、沖の船団に連絡をする唯一の手段であった狼煙場の様子を今に伝える。	太地町
14	燈明崎 燈明台跡	未指定	かつて新宮藩から派遣された役人が常駐し、鯨油を利用した燈明台が設けられていた。現在、絵図等を参考に灯明台が建てられている。	太地町
15	燈明崎 山見台跡	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台があった跡であり、現在、古式捕鯨図を参考に山見台が復元されている。	太地町

16	古式捕鯨 <small>たかつかれんらくしよあと</small> 高塚連絡所跡	町史跡	遠く離れた山見相互の連絡をするため、中継所としての役割を果たした。連絡所の位置は、実に綿密に計画され設けられている。	太地町
17	和田の岩門 <small>わた せきもん</small>	未指定	門の内側には、古式捕鯨の創始者である和田氏の広大な屋敷があったとされ、この地域一帯が、和田氏を中心とした共同体であったことを物語っている。	太地町
18	太地角右衛門の墓 <small>たいじかくえもん</small>	未指定	熊野灘地域における組織的捕鯨（古式捕鯨）に綱取り法を取り入れ、中興の祖となった太地角右衛門の存在が墓石から確認できる。	太地町
19	刺し加子墓	未指定	太地氏が加子の千百大 <small>(まさと)</small> のために建立した墓である。太地鯨方 <small>(たいじくじらかた)</small> 内部における関係性を示す資料でもある。	太地町
20	梶取崎 狼煙場跡	未指定	当時、沖の船団に連絡をする唯一の手段であった狼煙場の様子を今に伝える。	太地町
21	三輪崎の鯨踊 <small>みわさき くしらおどり</small>	県無形民俗	捕鯨が育んだ文化として、かつての古式捕鯨における行事を今に伝える。捕鯨とともに始まり、浜で踊った大漁祝いが起源であると伝えられている。鉦に見立てた綾棒を腰に差し、両手に扇子をもち網を投げて鯨を取りまく形を表現する「殿中踊 <small>(でんちゅうおど)</small> り」と、終始座して綾棒をかかげ、上半身のみで鉦突きを表現する「綾踊り」の2曲がある。	新宮市
22	羽指中建立の石祠 <small>はざしなかこんりゅう せきし</small>	未指定	側面に「〇〇〇組羽指中」とだけ読み取れる文字があり、この祠の所在する三輪崎地域の鯨方の羽指中が建立したものと考えられる。	新宮市
23	鯨山見跡 <small>くしらやま みあと</small>	未指定	沖を見るには絶好の場所に、現在石積がなされており、山見台があった跡である。この場所の南北に更に2か所の山見台があった記録があおり、かつての三輪崎鯨方山見跡の名残を留めている。	新宮市
24	孔島巖島神社の石造物 <small>くしほ</small>	未指定	神社境内に、鯨方に関連する石造物が残っている。石灯籠は太地鯨方「角右衛門一類」太地与一頼任が奉納したもの、法華塔は三輪崎鯨方「御組」羽指中 彦太夫、新太夫ら建立したものであり、鯨方の信仰を物語る石造物である。	新宮市

25	三輪崎八幡神社の石灯籠	未指定	神社境内に太地与一が奉納した石灯籠が残る。鯨方の信仰を物語る石造物である。	新宮市
26	青岸渡寺の魚霊供養碑 <small>せいがんとし きょれい</small>	未指定	鯨をはじめとした様々な魚の命をいただくことに対する感謝の表れとして、供養をするという精神文化が、今なお引き継がれている。	那智勝浦町
27	塩竈神社のせみ祭り <small>しおがま</small>	未指定	鯨にまつわる祭りとして当神社で行われる「せみ祭り」(例祭)では、的に取り付けた鯨に似せた「せみ」を、「せみ子」と呼ばれる白装束の子供が引き抜き走るといふ、捕鯨にまつわる伝統行事が今も受け継がれている。	那智勝浦町
28	浜の宮のお弓祭り	未指定	熊野三所大神社の例祭であり、神事の中で、的に取り付けられた鯨に似せた「背美 <small>(せみ)</small> 」を奪い合う、あるいは的の端を持ち帰るなど、捕鯨にまつわる伝統行事として、今も受け継がれている。	那智勝浦町
29	宇久井半島の山見台跡群	未指定	古式捕鯨にとって最も重要な施設である山見台跡があった跡であり、かつて、三輪崎鯨方 <small>(みわさきくじらがた)</small> の拠点であった。	那智勝浦町

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文、県有形、市無形、等)。
- (※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

# 構成文化財の写真一覧

(串本町)

## 1 河内祭りの御船行事



## 4 檜野崎の鯨山見

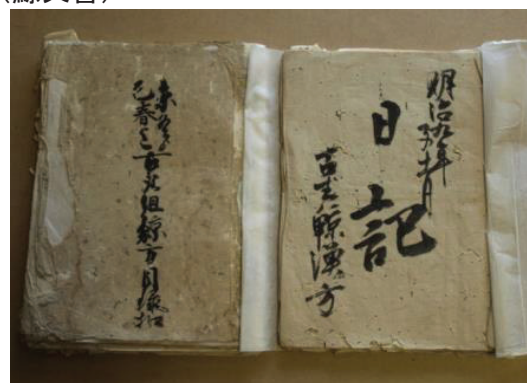


## 2 九龍島

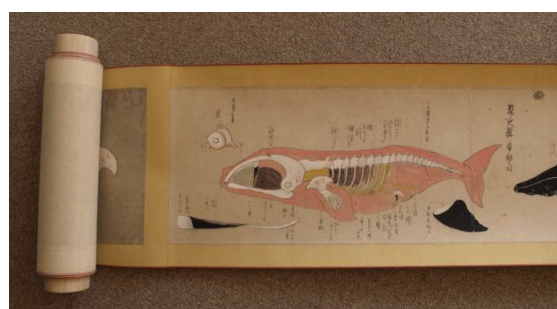


## 5 串本町史編纂資料

(鯨文書)



(鯨絵巻)



(喜多野又兵衛板書)

## 3 潮岬の鯨山見



6 有田八幡神社寄進札



7 古座組鯨方石室



(太地町)

8 捕鯨の祖 和田頼元墓



11 鯨供養碑



9 太地のくじら踊



12 古式捕鯨 支度部屋跡



10 飛鳥神社



13 古式捕鯨 狼煙場跡



14 燈明崎 燈明台跡



17 和田の石門



15 燈明崎 山見台跡



18 太地角右衛門の墓



16 古式捕鯨 高塚連絡所跡



19 刺し加子墓



20 梶取崎 狼煙場跡



(新宮市)

21 三輪崎の鯨踊



24 孔島巖島神社の石造物



22 羽指中建立の石祠



23 鯨山見台跡



25 三輪崎八幡神社の石灯籠



(那智勝浦町)

26 青岸渡寺の魚霊供養碑



28 浜の宮のお弓祭り



27 塩竈神社のせみ祭り



29 宇久井半島の山見台跡群



## 日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
032	鯨とともに生きる

## (1) 将来像 (ビジョン)

- 日本遺産「鯨とともに生きる」の舞台、紀伊半島の南東部、熊野灘沿岸地域では江戸時代初期に組織的な捕鯨が始まり、現在でも捕鯨が受け継がれている。地域には鯨と人の長い関わりを示す史跡が残り、鯨にまつわる様々な祭りや伝統芸能、食文化が受け継がれている地域である。

当地域は高齢化による人口減少が懸念される過疎化が進む地域であり、今後も「日本遺産」のブランドを活用し、交流人口を増加させることが地域活性化には極めて重要である。加えて、地域における文化の保存・活用・継承につなげていきたい。

## (地域の長期的構想における日本遺産の位置づけ)

- 「第三期和歌山県文化芸術振興基本計画」では、「文化資源の保全と活用による地域づくり」の中で、『日本遺産』のストーリーを活かした地域活性化の推進を掲げ、和歌山県の日本遺産のストーリーを活用し、地域の活性化や観光振興を図り、あわせて、日本遺産の認知度向上に努めるとともに、構成する文化財の整備を進めることとしている。

また、「和歌山県観光振興実施行動計画」では、世界遺産や温泉等、様々な視点で和歌山を売り出し観光振興につなげるとしているが、その中の一つとして、「日本遺産」を活用することで和歌山にしかない特別な「物語」・「歴史・文化」を分かりやすくストーリー立てて発信することをテーマに掲げている。和歌山県内では「鯨とともに生きる」を含め、7件の日本遺産が認定されており、それぞれ認知度向上、連携を図り、誘客につなげることとしている。

「鯨とともに生きる」構成市町においては、捕鯨文化の中心自治体である太地町が「第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で「くじらを核とした産業振興で『豊かで活力のあるまち』を創造する」と基本目標を掲げている。くじら、自然、文化などの町独特の観光資源を活用するため、受入態勢や情報発信の強化や、観光や町内産業をつなげる総合的な構想「森浦湾鯨の海計画」を戦略的に推進してSUP、シーカヤックといった新たな体験観光素材を開発するなど、さらにくじらを核として「豊かで活力のあるまち」を創造することを目標としている。また、ほかの構成市町でも「第2期新宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「串本町第2次まち・ひと・しごと創生総合戦略」にて、日本遺産を観光資源として位置づけるとともに、その文化の保存や振興を計画に掲げている。

(地域の将来像)

- 当地域は、ここにしかない観光資源に恵まれており、日本遺産「鯨とともに生きる」に加え、令和6年度に登録から20周年を迎えた世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」という2種の遺産エリアが併存する地域であり、それぞれの特徴から「海の日本遺産、山の世界遺産」と打ち出している。

また、プレート運動から生まれた3つの地質体が織りなす独特な景観や生態系などを体験できる日本ジオパークの「南紀熊野ジオパーク」に加え、日本初の民間ロケット射場「スペースポート紀伊」を使用したロケットの打ち上げは新たな観光資源として注目されており、新たな産業・観光資源の拠点になる地域である。

近年、観光客の嗜好が、従来型の観光スポットを巡る観光から体験型観光に移行していることから、和歌山県が誇る海・山・川の美しい自然との触れあい体験として、熊野古道トレッキング、SUP、カヤック、カヌー等「体験型観光」の素材が豊富にある当地域は、更なる観光客増加が見込める地域である。加えて、紀伊半島の海岸線沿いを太平洋岸自転車道がナショナルサイクルルートに指定されるほか、和歌山県全域約800kmにブルーラインを整備してWAKAYAMA800と称してサイクリング振興に取り組んでおり、紀伊半島南部の熊野エリアを一周する「クマイチ」など、当地域はサイクリングブームの拠点にもなりつつある地域でもある。さらに、サイクリングルートの一部は鉄道と並行しており、JR西日本が運行している「サイクルトレイン」を利用すれば、初心者を含めた幅広い層が活用できる。

そして、歴史・文化・自然を学び、様々な体験が出来るエリアとして、教育旅行等を始めとする団体旅行についても誘致を促進していく。また、近年増加している外国人観光客の受け入れ態勢を整えていく。

今後も、日本遺産を活用した体験メニューの充実や周遊ルートの構築等、世界遺産をはじめ当地域の様々な観光資源と連携したプロモーションを展開し、誘客促進や来訪者の滞在時間の延長を促すための取り組みを行う。

これらの取り組みを通じて、日本遺産「鯨とともに生きる」を形成した景観、そこから生まれた、現在も地域に根付く捕鯨文化や歴史に来訪者が触れる機会を増やすとともに、学校教育や教育旅行などを通して若年層にも日本遺産や捕鯨文化の理解を深めてもらうことで、文化の保存・活用・継承につなげていく。この捕鯨文化は、江戸時代から続く独特な文化資源であり、今後も継承し続けることでさらに有力な観光資源にもなる。有力な観光資源があれば、それをもとに民間事業者が観光商品を作成し、来訪者の誘客につながり、結果として交流人口の増加や地域の活性化、ひいては地域住民が豊かになるという好循環にもつながる。

こういった好循環を将来の目標として、一層の日本遺産の活用、捕鯨文化の保存・活用・継承に取り組んでいく。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－A：構成文化財に含まれる祭りの来場者数（単位：人）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	107	7,010	7,258			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	7,330	7,403	7,477	7,551	7,626	7,702
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		<p>河内祭の御舟行事など日本遺産を構成する伝統芸能や祭りへの来場者数。</p> <p>2025年度は2024年度の入館者数に対して101%とし、その後も伸び率を101%とする。市町村からの報告により把握</p>				

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－B：太地町立くじらの博物館入館者数						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	138,757	129,260	112,698 <small>(審査時)</small> 131,837 <small>(審査後に判明した実績値)</small>			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	113,825 <small>(審査時)</small> 133,155 <small>(審査後に判明した目標値)</small>	114,963 <small>(審査時)</small> 134,486 <small>(審査後に判明した目標値)</small>	116,112 <small>(審査時)</small> 135,830 <small>(審査後に判明した目標値)</small>	117,273 <small>(審査時)</small> 137,188 <small>(審査後に判明した目標値)</small>	118,446 <small>(審査時)</small> 135,559 <small>(審査後に判明した目標値)</small>	119,630 <small>(審査時)</small> 136,914 <small>(審査後に判明した目標値)</small>
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		<p>構成市町である太地町が設置・運営している「太地町立くじらの博物館」において、鯨の生態・捕鯨文化の歴史等について、学術的見地から学習し、実際にふれあい体験などを通して鯨類について体感するとともに、絵付け体験等の体験もできる施設もできる施設である。</p> <p>2025年度は2024年度の入館者数に対して101%とし、その後も伸び率を101%とする。くじらの博物館からの報告により把握</p>				

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：協議会の事業を通して日本遺産のストーリーを理解した参加者の割合 (単位：%)						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	—	—	—			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	80	84	88	92	96	100
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		セミナーやウォークイベント等協議会の開催した事業の参加者アンケートにより把握する。 2030年度までに100%の理解を得ることを目標とする。 ※実績値は同様の調査を実施していなかったため、把握していない				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：太地町立くじらの博物館入館者数（単位：人）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	138,757	129,260	112,698 (審査時) 131,837 (審査後に判明した実績値)			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	113,825 (審査時) 133,155 (審査後に判明した目標値)	114,963 (審査時) 134,486 (審査後に判明した目標値)	116,112 (審査時) 135,830 (審査後に判明した目標値)	117,273 (審査時) 137,188 (審査後に判明した目標値)	118,446 (審査時) 135,559 (審査後に判明した目標値)	119,630 (審査時) 136,914 (審査後に判明した目標値)
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		構成市町である太地町が設置・運営している「太地町立くじらの博物館」において、鯨の生態・捕鯨文化の歴史等について、学術的見地から学習し、実際にふれあい体験などを通して鯨類について体感するとともに、絵付け体験等の体験もできる施設であり、周辺の資産・体験施設等への誘客を促進する起点となるためくじらの博物館からの報告により把握。指標①－Bと同様				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産や捕鯨文化についての小中学校での授業回数（単位：回）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	69	61	67			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	67	67	67	67	67	67
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成市町における小中学校での日本遺産や捕鯨文化についての授業回数。各教育委員会からの報告により把握。2024年と同数を維持することを設定					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：対象エリア内の観光客入込み数（単位：人）						
年度	実績					
	2022	2023	2024			
数値	3,753,183	4,413,047	4,738,525 <small>(審査後判明した実績値)</small>			
年度	目標					
	2025	2026	2027	2028	2029	2030
数値	4,457,177 <small>(審査時)</small>	4,501,748 <small>(審査時)</small>	4,546,765 <small>(審査時)</small>	4,592,232 <small>(審査時)</small>	4,638,154 <small>(審査時)</small>	4,684,535 <small>(審査時)</small>
	4,785,910 <small>(審査後判明した目標値)</small>	4,833,769 <small>(審査後判明した目標値)</small>	4,882,106 <small>(審査後判明した目標値)</small>	4,930,927 <small>(審査後判明した目標値)</small>	4,980,236 <small>(審査後判明した目標値)</small>	5,030,038 <small>(審査後判明した目標値)</small>
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	2025年度以降の伸び率を101%としている。 和歌山県観光客動態調査により把握					

### (3) 地域活性化のための取組の概要

将来像実現のため、協議会と地域の観光関連事業者、地元ガイド等が連携して取組を進める。

#### ①組織整備

当協議会は 2024 年度までに、行政組織ではない3団体が新たに加えるなど協議会体制の強化を進めている。今後、さらに当地域の活性化を図るためには、「大阪・関西万博」やロケット打上げなどのインバウンドを含め多数の人が来訪する機会を捉え、日本遺産のみならず、世界遺産やジオパークといった他の観光資源と連携して、効果的に情報を発信していくことが重要である。そこで、引き続き協議会への民間事業者の加入促進を行い、民間の事業者の視点・発想などを協議会に取り入れるとともに、効果的な事業展開のため協議会内外の意見などを反映していく。

- ・ 組織体制への行政組織以外の参画に向けた検討、加入促進
- ・ 協議会事業への協力者の増加（商品の委託販売など）
- ・ 協議会総会、幹事会の開催

#### ②人材育成及び活用

当地域は、前述のとおり、日本遺産に限らず、世界遺産、ジオパークなどの観光資源が豊富であり、それぞれの分野のガイドが存在する。そこで各分野のガイドにも呼び掛けて、日本遺産の見識を深める機会を設けることにより、各分野のガイド活動をする中でも日本遺産の知識を活用した案内等の実践につなげ、日本遺産の認知度をさらに高めていく。

- ・ ガイド養成講座の開催
- ・ 養成したガイドのスキル向上を図る研修会の開催
- ・ 養成したガイドによる日本遺産ウォークイベントの開催

#### ③観光事業化の推進

協議会としてこれまで整備してきた日本遺産・捕鯨文化についての説明板や、体験メニュー・鯨食提供店舗などをそれぞれ紹介するパンフレットもあり、日本遺産のストーリーを体験してもらうために必要となる基盤は整っている。こうした基盤を維持するとともに、地元太地町が整備を行っている「森浦湾くじらの海構想」で開発された新たな体験観光素材である、鯨を活用したSUP、シーカヤックといった既存のコンテンツとの連携を深め、地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらう機会を設け、当地域での消費・経済効果の拡大を図る。

- ・ 説明板、案内板の確認、整備の検討
- ・ 各種パンフレットの修正、増刷
- ・ 既存コンテンツを提供する事業者と連携して、体験者が日本遺産ストーリーに触れる機会を提供する仕組みの検討、実施

#### ④普及啓発・情報発信の強化

「大阪・関西万博」やロケット打上げなどのインバウンドを含め多数の人が来訪する

機会を捉え、日本遺産のみならず、世界遺産やジオパークといった他の観光資源と連携して、効果的に情報を発信していくことにより、当地域への誘客の促進を図る。

また、若年層に向けて、捕鯨文化等についての学校教育や教育旅行誘致を推進していくことで、若年層にも日本遺産や捕鯨文化についての理解を深めてもらい、将来の文化継承につなげる。

- ・ 他の観光資源、イベントと連携したプロモーションの実施
- ・ 雑誌等様々な媒体を活用した情報発信
- ・ ウェブサイトや SNS 等を活用した効果的な情報発信
- ・ 教育旅行等の誘致推進

#### (4) 実施体制

和歌山県東牟婁振興局地域づくり課に協議会の事務局を設置し、当該地域の関係団体等の意見も反映した多面的な事業を展開することを目的として、行政（県・市町の観光・商工部局、教育委員会）だけではなく、観光協会等観光関連団体、芸能保存会等関連する団体が構成組織となっており、また、交通事業者（西日本旅客鉄道株式会社和歌山支社）、旅行事業者（熊野御坊南海バス株式会社、（一社）日本旅行業協会和歌山地区）がオブザーバーとして参画していることから、それぞれの組織が連携して効果的に下記の取組を実施する。

また、さらなる来訪者の増加を見据え、（公社）和歌山県観光連盟等と連携し、インバウンドを含めた来訪者の視点に立った情報発信等に努める。そして、現在の協議会体制に加えて、協力事業者等と広く連携できる体制を整えていく。

##### ○協議会事務局

- ・ 効率的な事務運営を行うとともに、構成団体内の相互の情報を共有し、食・体験・文化等の情報を効果的に発信する

##### ○行政

- ・ 協議会の取組への協力及びそれぞれの長期的計画をもとに日本遺産の活用を図る

##### ○観光協会等観光関連団体：

- ・ 現在販売中の日本遺産ウォークツアー等関連商品のさらなる情報発信・販売促進
- ・ インバウンドを含めた来訪者の視点に立った情報発信

##### ○芸能保存会

- ・ さらなる普及啓発を行い、将来への文化継承を行う

#### [人材育成・確保の方針]

当地域は、前述のとおり、日本遺産に限らず、世界遺産、ジオパークなどの観光資源が豊富であり、それぞれの分野のガイドが存在する。そこで各分野のガイドにも呼び掛けて、日本遺産の見識を深める機会を設けることにより、各分野のガイド活動をする中でも日本遺産の知識を活用した案内等の実践につなげ、日本遺産の認知度をさらに高めていく。また、養成したガイドにスキルアップ研修会等に参加してもらうよう働きかけ、スキルを発揮できるウォークイベント等を実施することで、日本遺産の認知度向上及び日本遺産ガイドの能力の向上を図る。

本県では、当地域の一部を含む世界遺産エリアにおいて、外国語により案内出来る「高野・熊野地域通訳案内士」の制度があることから当該有資格者に対し、日本遺産ガイド研修への参加を求めるなど、活動に活かすことにより外国人観光客の日本遺産についての認知度向上を図るとともに、受入体制を整える。

また、地域住民に日本遺産や捕鯨文化についての理解を深めてもらうための地域住民に向けたセミナーを開催する。さらに、若年層に向けて、捕鯨文化等についての学校教育や教育旅行の誘致を推進していくことで、若年層にも日本遺産や捕鯨文化についての理解を深めてもらい、将来の文化継承につなげる。

#### (5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

これまで協議会の体制強化を図りながら、日本遺産の認知度向上等普及啓発を積極的に進めてきており、さらに、2022年度からはウォークイベントを開催し、参加者から参加料を徴収するといった事業を行っているほか、2024年度から地域の事業者との間に覚書を交わし、その事業者の商品を委託販売することで収益が協議会に入るといった事業を開始しており、協議会自ら財源確保に取り組んでいる。

引き続き、日本遺産の情報発信、受入環境整備、ガイドの育成等に取り組み、前述の周辺資産との組み合わせによる観光消費額の増加を見込めるまでは、自治体からの支援を得て事業を継続していくとともに、協議会財源のさらなる拡大・充実化を図っていく。

こういった事業が一定の実績を作り、軌道にのるようであれば、順次自治体からの支援を少なくし、観光関連事業者等民間事業者が運営の中心的役割を果たせるよう財源・事務の移行も念頭に置いて、事業を進めていく。

#### (6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

構成文化財に関しては、社寺・史跡等については、適切に保存がなされているので、引き続き適切な保存に努める。

一方、祭りや伝統芸能については、新型コロナウイルス感染症の影響や担い手の高齢化もあり、開催を数年にわたり延期・中止に追い込まれたり、神事のみで縮小して催行したりといった事態が生じており、後世への保存・継承を確実にするための施策を講じていく必要がある。

若年層に向けた学校教育や教育旅行等の誘致を推進していくことで、次代の担い手となる若年層にも日本遺産や捕鯨文化についての理解を深めてもらい、将来の文化継承につなげる。また、日本遺産や捕鯨文化についての住民向けのセミナー等を開催することで、地域住民に捕鯨文化の大切さを再認識してもらうとともに、郷土愛の醸成を図り、地域住民による祭りや伝統芸能の保存活動につなげる。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	協議会の組織整備		
概要	協議会の計画の円滑な実施のため、行政組織以外の観光関係者や民間事業者なども加え、協議会体制を強化する		
	取組名	取組内容	実施主体
①	事業全体の統括を行う組織の整備	行政組織以外に、観光関係者や民間事業者なども加え、協議会体制を強化 ・ 飲食店：新たな鯨メニューの開発 ・ 体験事業者：新たな体験メニューの開発 ・ 商工会：飲食店の支援 ・ 観光事業者：新たなメニューの販売 といった観点から意見を出し合い、事業内容を検討する	協議会
②			
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	組織体制への行政組織以外の参画者数		10 団体
2023			10 団体
2024			12 団体
2025	組織体制への行政組織以外の参画に向けた検討・協議		1 回
2026	組織体制への行政組織以外の参画者数		13 団体
2027	組織体制への行政組織以外の参画に向けた検討・協議		1 回
2028	組織体制への行政組織以外の参画者数		14 団体
2029	組織体制への行政組織以外の参画に向けた検討・協議		1 回
2030	組織体制への行政組織以外の参画者数		15 団体
事業費	2025 年度：－		2026 年度：－
			2027 年度：－
継続に向けた事業設計	事業実施の際に協力いただいている観光関係者や民間事業者に対して、協議会加入の提案を行う。		

事業費	2028年度：－	2029年度：－	2030年度：－
継続に向けた事業設計	事業実施の際に協力いただいている観光関係者や民間事業者に対して、協議会加入の提案を行う。		

(事業番号 1－B)

事業名	日本遺産整備に資する資金の獲得
概要	協議会が実施する商品の委託販売事業を通して資金の獲得を図る

	取組名	取組内容	実施主体
①	商品の委託販売事業を通じた資金の獲得	協議会が実施する商品の委託販売事業を通して日本遺産整備に資する資金の獲得を図る	協議会
②			
③			
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	商品の委託販売事業による協議会の収益	－
2023		－
2024		4,800円
2025	商品の委託販売事業による協議会の収益	10,000円
2026	商品の委託販売事業による協議会の収益	11,000円
2027	商品の委託販売事業による協議会の収益	12,000円
2028	商品の委託販売事業による協議会の収益	13,000円
2029	商品の委託販売事業による協議会の収益	14,000円
2030	商品の委託販売事業による協議会の収益	15,000円

事業費	2025年度：－	2026年度：－	2027年度：－
継続に向けた事業設計	2024年度に覚書を交わして、協議会に収益の入る商品の委託販売事業を開始。継続して各種イベント出展の際に販売し、協議会に収益が入るよう努める。		
事業費	2028年度：－	2029年度：－	2030年度：－
継続に向けた事業設計	覚書を交わす事業者の増加や取り扱う商品の拡大などを検討して、収益額の増加を図る。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号2-A)

事業名	PDCAサイクルをまわす仕組みの整備		
概要	事業の進捗状況や効果把握のため、定期的な会議等を設定する		
	取組名	取組内容	実施主体
①	協議会総会、幹事会の開催	各事業の進捗状況や効果把握のため、年1回の総会を設定し、年間事業計画の策定を行う。および年2回の幹事会を設定し、各事業の進捗状況や効果把握を行い、事業の円滑な推進を目指す。必要に応じて、関係機関での情報交換を図る担当者会議等を適宜開催	協議会
②	事業の進捗状況・効果把握	協議会総会を年1回以上開催し、前年度の事業報告・収支決算、当該年度の事業計画・収支予算について報告を行う。総会の場合、ビジョンに基づく効果的な事業内容であること、また、効果的に事業展開を図れるかどうかについて検討	協議会
③	事業計画の立案・進捗管理	ビジョンに基づき、長期・短期の事業計画を協議会幹事会で立案し、総会に諮る。年度途中においては、協議会・構成自治体等が実施する事業について、情報交換・共有を図り、より効果的な事業展開を行い、成果が導き出せるよう複数回担当者会議を開催	協議会
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	総会、幹事会の開催実績		総会2回、幹事会2回
2023			総会1回、幹事会2回
2024			総会2回、幹事会2回
2025	総会、幹事会の開催実績		総会1回、幹事会2回
2026	総会、幹事会の開催実績		総会1回、幹事会2回
2027	総会、幹事会の開催実績		総会1回、幹事会2回
2028	総会、幹事会の開催実績		総会1回、幹事会2回
2029	総会、幹事会の開催実績		総会1回、幹事会2回
2030	総会、幹事会の開催実績		総会1回、幹事会2回
事業費	2025年度：－	2026年度：－	2027年度：－
継続に向けた事業設計	－		

事業費	2028 年度：－	2029 年度：－	2030 年度：－
継続に向けた 事業設計	－		

## (7) - 3 人材育成

(事業番号 3-A)

事業名	日本遺産を活用する人材の育成		
概要	日本遺産を活用する人材育成のため、すでに地域で活躍している人材を中心に日本遺産ガイド研修等の教育を実施する		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産ガイド研修の実施	すでに他の活動をされている語り部（紀伊山地の霊場と参詣道、南紀熊野ジオパーク）を中心に、日本遺産を含めてエリアの語り部として活動できるよう研修等の教育を実施（インバウンド対応含む）	協議会
②	日本遺産ガイドウォークイベントの実施	上記ガイド研修で会得した知識を活用して、日本遺産ガイドによるウォークイベントを実施することで、ツアーの行程（構成資産、飲食店・土産物・体験施設）や説明箇所・内容のブラッシュアップを図り、他のガイド等との情報の共有を図る	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			2回 1回
2023	日本遺産ガイド研修開催実績 日本遺産ガイドウォークイベント実施		2回 1回
2024			2回 2回
2025	日本遺産ガイド研修開催 日本遺産ガイドスキルアップ研修開催 日本遺産ガイドウォークイベント		2回 1回 2回
2026	日本遺産ガイド研修開催 日本遺産ガイドスキルアップ研修開催 日本遺産ガイドウォークイベント		2回 1回 2回
2027	日本遺産ガイド研修開催 日本遺産ガイドスキルアップ研修開催 日本遺産ガイドウォークイベント		2回 1回 2回
2028	日本遺産ガイド研修開催		2回

	日本遺産ガイドスキルアップ研修開催 日本遺産ガイドウォークイベント	1回 2回
2029	日本遺産ガイド研修開催 日本遺産ガイドスキルアップ研修開催 日本遺産ガイドウォークイベント	2回 1回 2回
2030	日本遺産ガイド研修開催 日本遺産ガイドスキルアップ研修開催 日本遺産ガイドウォークイベント	2回 1回 2回
事業費	2025年度：300千円　2026年度：300千円　2027年度：300千円	
継続に向けた 事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施 日本遺産ガイドを養成するとともにスキルアップを図り、また身につけたスキルを活用する場としてウォークイベントを開催する。	
事業費	2028年度：300千円　2029年度：300千円　2030年度：300千円	
継続に向けた 事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施 日本遺産ガイドを養成するとともにスキルアップを図り、また身につけたスキルを活用する場としてウォークイベントを開催する。	

## (7) - 4 整備

(事業番号 4 - A)

事業名	普及、活用事業		
概要	日本遺産のストーリーを体験してもらうために必要な基盤となる設備の整備・維持管理を行う		
	取組名	取組内容	実施主体
①	説明板、案内板の整備	各拠点に整備している説明板、案内板について情報の更新を含め再整備が必要なものは、再整備を図る。また整備が必要な箇所等については、関係者と調整のうえ、整備を行う	協議会
②	パンフレットの整備	日本遺産のストーリーなどを紹介する総合ガイドブック、鯨に關係する体験メニューなどを紹介するパンフレット、鯨食提供店舗を紹介するパンフレットを整備しているが、適宜掲載情報の見直し・拡大を図って再整備を行う	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			2件
2023	説明板、案内板の確認・整備の検討		1件
2024	パンフレットの作成・修正・増刷		47件 2件
2025	説明板、案内板の確認・整備の検討 パンフレットの修正・増刷		47件 1件
2026	説明板、案内板の確認・整備の検討		47件
2027	説明板、案内板の確認・整備の検討 パンフレットの修正・増刷		47件 1件
2028	説明板、案内板の確認・整備の検討		47件
2029	説明板、案内板の確認・整備の検討 パンフレットの修正・増刷		47件 1件
2030	説明板、案内板の確認・整備の検討		47件
事業費	2025年度：300千円    2026年度：-    2027年度：300千円		
継続に向けた事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施。		
事業費	2028年度：-    2029年度：300千円    2030年度：-		

継続に向けた 事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施。
----------------	---------------------------

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産ストーリー体験事業
概要	地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらう事業を実施し、エリア内での消費拡大や経済効果を生み出す

	取組名	取組内容	実施主体
①	ウォークイベント等の実施	ウォークイベントやガイドツアーを実施し、地域内外の人々に日本遺産のストーリーを体験してもらう	協議会
②	既存コンテンツとの連携	シーカヤック等地域の体験事業者と連携し、体験参加者に構成文化財や情報拠点でストーリーに触れていただき、理解を深めていただく取り組みを検討・実施	協議会 体験事業者
③	地域住民向けセミナーの開催	地域に居住する人向けに日本遺産のストーリーを理解してもらうためセミナーを開催	協議会
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	日本遺産ウォークツアー参加者数 地域向けセミナーの開催数	21人
2023		22人
2024		24人 1回
2025	日本遺産ウォークツアー参加者数	25人
2026	日本遺産ウォークツアー参加者数 地域向けセミナーの開催数	28人 1回
2027	日本遺産ウォークツアー参加者数	31人
2028	日本遺産ウォークツアー参加者数 地域向けセミナーの開催数	34人 1回
2029	日本遺産ウォークツアー参加者数	37人
2030	日本遺産ウォークツアー参加者数 地域向けセミナーの開催数	40人 1回
事業費	2025年度：250千円    2026年度：300千円    2027年度：250千円	

継続に向けた事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金・ウォークツアー参加料により事業実施。 より幅広い層から参加者を募集するため、熊野古道、南紀熊野ジオパークなど地域の観光資源と結び付けたウォークツアーを実施する。ウォークツアーについては参加者から参加料を徴収する。
事業費	2028年度：300千円　2029年度：250千円　2030年度：300千円
継続に向けた事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金・ウォークツアー参加料により事業実施。 より幅広い層から参加者を募集するため、熊野古道、南紀熊野ジオパークなど地域の観光資源と結び付けたウォークツアーを実施する。ウォークツアーについては参加者から参加料を徴収する。

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	学校教育との連携、普及啓発活動
概要	生徒への教育プログラム、体験メニューを県内外へPRし、教育プログラムや体験メニューを経験してもらい、日本遺産や地域の捕鯨文化の理解を深めていただく

	取組名	取組内容	実施主体
①	教育旅行等誘致事業	県内外の学校や旅行会社を訪問するなどして、熊野灘エリアへの教育旅行等を採用してもらえる取り組みを実施	協議会
②	体験メニュー紹介パンフレットの更新	①の案内ツールとして活用できる体験メニュー紹介パンフレット再整備を行う	協議会
③	地域住民向けセミナーの開催	地域に居住する人向けに日本遺産のストーリーを理解してもらうためセミナーを開催	協議会
④			

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2022	くじらの博物館における教育プログラム受講人数 地域向けセミナー開催数	1,080人
2023		1,013人
2024		996人 1回
2025	くじらの博物館における教育プログラム受講人数	1,005人
2026	くじらの博物館における教育プログラム受講人数 地域向けセミナー開催数	1,015人 1回
2027	くじらの博物館における教育プログラム受講人数	1,025人
2028	くじらの博物館における教育プログラム受講人数	1,035人

	地域向けセミナー参加人数	1 回
2029	くじらの博物館における教育プログラム受講人数	1,045 人
2030	くじらの博物館における教育プログラム受講人数 地域向けセミナー参加人数	1,055 人 1 回
事業費	2025 年度：－	2026 年度：50 千円
		2027 年度：－
継続に向けた事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施 くじらの博物館における教育プログラム受講人数は、2025 年度は 2024 年度の受講人数に対して 101%とし、その後も伸び率を 101%とする。	
事業費	2028 年度：50 千円	2029 年度：－
		2030 年度：50 千円
継続に向けた事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施 くじらの博物館における教育プログラム受講人数は、2025 年度は 2024 年度の受講人数に対して 101%とし、その後も伸び率を 101%とする。	

(7) -7 情報編集・発信			
(事業番号 7-A)			
事業名	HP 等における情報発信		
概要	日本遺産のストーリーに関する基本情報や、エリアのイベント情報を HP 等において情報発信する		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ウェブサイトの継続的な更新	ウェブサイトを継続的に更新し、エリアを訪れるうえで必要となる構成文化財や観光地の基本情報を最新のものに整える	協議会
②	SNS による情報発信	SNS (Facebook・Instagram) からの情報発信により、エリアの情報発信やイベント情報を発信し誘客につなげる	協議会
③			
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022			10 件 1,419 人
2023	Facebook ページの発信件数 SNS (Facebook・Instagram) 合計フォロワー数		18 件 1,487 人
2024			45 件※令和 7 年 1 月末時点 1,693 人※令和 7 年 1 月末時点
2025	Facebook・Instagram ページの発信件数 SNS (Facebook・Instagram) 合計フォロワー数		50 件 1,750 人

2026	Facebook・Instagram ページの発信件数 SNS (Facebook・Instagram) 合計フォロワー数	100 件 1,800 人
2027	Facebook・Instagram ページの発信件数 SNS (Facebook・Instagram) 合計フォロワー数	50 件 1,850 人
2028	Facebook・Instagram ページの発信件数 SNS (Facebook・Instagram) 合計フォロワー数	50 件 1,900 人
2029	Facebook・Instagram ページの発信件数 SNS (Facebook・Instagram) 合計フォロワー数	50 件 1,950 人
2030	Facebook・Instagram ページの発信件数 SNS (Facebook・Instagram) 合計フォロワー数	50 件 2,000 人
事業費	2025 年度 : 100 千円    2026 年度 : 300 千円    2027 年度 : 100 千円	
継続に向けた 事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施 日本遺産認定 10 周年を迎える予定である 2026 年度は重点的に情報発信を行う。	
事業費	2028 年度 : 100 千円    2029 年度 : 100 千円    2030 年度 : 100 千円	
継続に向けた 事業設計	和歌山県および構成市町からの負担金により事業実施	